

# 「お日さま」発電 寄付金で第1号

さいたま市中央区本町西2丁目の与野ひなごり保育園（園児97人）で、太陽光発電設備「市民共同発電所」が完成した。その名も「埼玉お日さまクラブ 与野ひなごり保育園発電所」。一般の人々や企業などの寄付で設置資金の一部を賄う、NPO法人・環境ネットワーク埼玉（事務局・さいたま市南区）のプロジェクトの第1号で、27日に本格発電を始める。  
（平林大輔）

## さいたま・27日から本格稼働

今月中旬、同園で、太陽光発電の試験運転があった。2階の保育室に設けられた「ひなごりみんなのはつでんしょ」と書かれた発電表示盤前に、十数人の園児が集まった。赤黄、緑……子どもたちが作った版面や、はり絵の太陽の下に大きなイモムシが1匹、おなかなどには小さなランプが15個ついている。試験運転が始まるや、「いまつくっているでんき」の横に数字が浮かんだ。「いちごな」「いちごなち」。1・7ワット、1・8ワット……。発電量に応じて数字が変わり、イモムシのおなかで光るランプの数も増えたり、減ったりすると、歓声が広がった。丸山豊生園長（40）は「おひさまの力で電気をつくっているんだよ」と語りかけると、ある園児は「マジックみたい」と喜んだ。

発電量の表示を確かめる丸山園長と園児ら。さいたま市中央区



## 「増やし続けたい」

の電力消費量の5%程度を賄うという。環境ネットは150の個人や環境NPO、民間企業などでつぐられ、県から地球温暖化防止活動推進センターに指定されている。2008年7月、太陽光発電の設置費の一部を寄付で賄うプロジェクトに乗り出した。日照条件のほか、雨水を園内の畑に利用するなど環境学習に力を入れていることなどから、09年7月、同園が選ばれた。丸山園長は「独自に太陽光発電を導入しなかったが、費用面で断念していたのでうれしかった」。設置費は300万円。環境ネットは同年11月から寄付を募り、3カ月ほどで県内外の約250人から計約120万円が集まった。残りは、県の「市民共同太陽光発電事業」の補助金などを充てた。園は太陽光発電分の電気代（年4万55万円）を5年間、環境ネットに支払い、ネットはこの電気代や新たな寄付などを元手に「発電所」を増やす。環境ネットの秋元智子事務局長は「マンションなどで太陽光発電を導入できない家庭も多い。温暖化防止に役立つことをアピールして寄付を増やし、来年度以降も1年に1カ所のペースで新設していきたい」と話す。環境ネットは設置希望者や寄付を募集している。問い合わせは同ネット（048・749・1217）へ。

2階建ての園舎の屋上に太陽光パネル（縦約1・6メートル、横約0・8メートル）計18枚を設置した。一般家庭1軒分に当たる最大約3・6ワットが発電でき、園